

会記

平成武拾八年一月二十一日於奈良博 八窓庵（主催 梁茶会）

テーマ 幕末・明治に茶道を守った方たち

待合

軸 花梨画 原在中（八十六歳） 玄々斎応需賛

年華浩子筆面色闹花時 仙郎五漢殿木公贈一枝

軸 消息 舌代給金 玄々斎

竹一重切花入 銘 瀧浪 虚白斎箱書銘直書花押

風炉先 松風蘿月 鉄斎書

水指 遠山金蔕絵桶水指 八代宗哲

火鉢 櫻・秋草光悦蔕絵

鉄瓶 波遷鳥 楼阁山水文 亀文堂写

軸 大綱画賛 富士図 画家義景（藤田小四郎瑞峯義景）

防長大守公少將に任せさせ玉ふ時寄名所祝の心を

軸 和歌 萬代越 佐楚よわふらし 可遣まくも

可しこ起君耳 阿武の松風 大徳寺四三五世 大綱宗彦

消息 京都博覧会他 玄々斎

軸 和歌 ひなつるのゆく末とほき声きけば みよをらとせとうたふなりけり

短冊 霞 たつひよりのどかになりて世の中のうきをへだつる春霞かな

短冊 ちよのよのちよのあとにたのもとぞたちよるそでにもみじうたう 蓮月

軸 和歌 千代や千世・明治天皇お歌所寄人須川信行